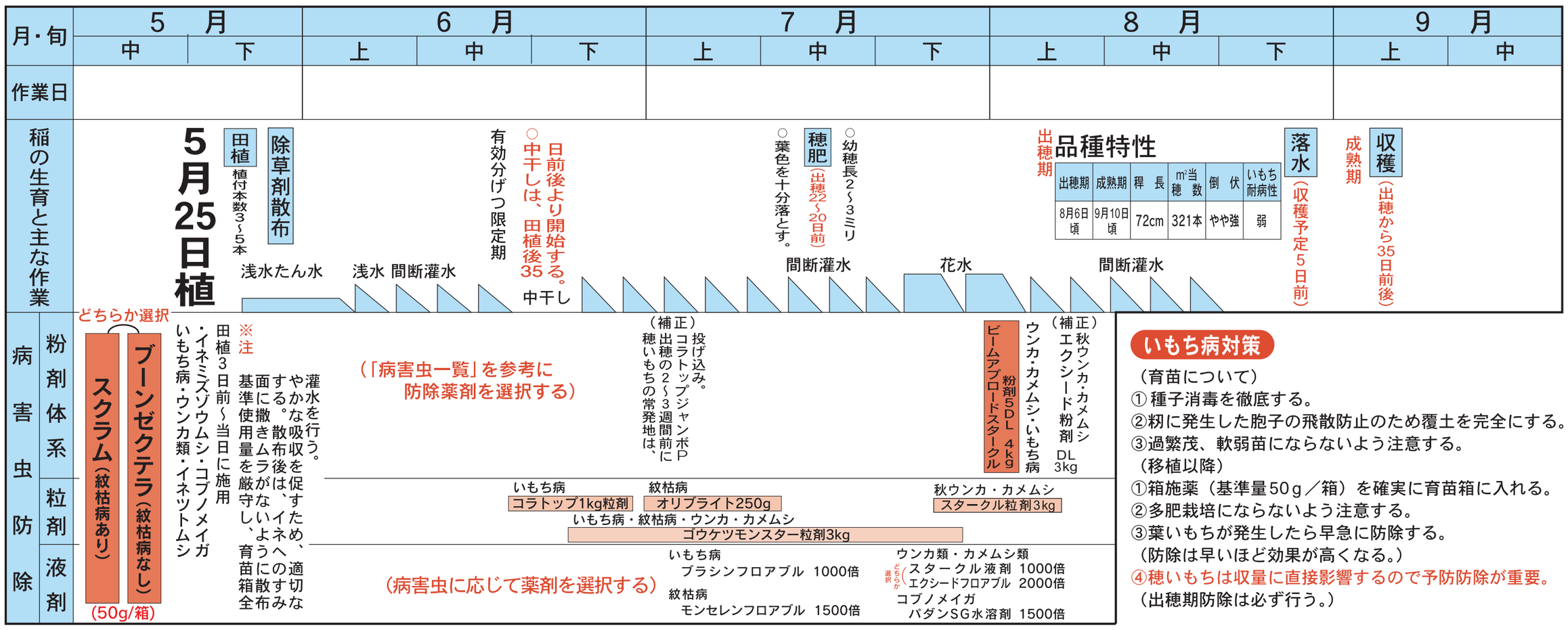
令和５年　れんげ米夢つくし栽培ごよみ

良質米の生産は基本技術の励行から！

生産履歴は必ず記帳しよう！

JA筑紫営農センター	(924-1313)
物流センター	(923-8221)
西部グリーン店	(952-2971)
中部グリーン店	(501-0036)
福岡普及指導センター	(806-3400)



いもち病対策

（育苗について）
①種子消毒を徹底する。
②籾に発生した胞子の飛散防止のため覆土を完全にする。
③過繁茂、軟弱苗にならないよう注意する。
（移植以降）
①箱施薬（基準量50ｇ／箱）を確実に育苗箱に入れる。
②多肥栽培にならないよう注意する。
③葉いもちが発生したら早急に防除する。
（防除は早いほど効果が高くなる。）
④穂いもちは収量に直接影響するので予防防除が重要。
（出穂期防除は必ず行う。）

レンゲの播種

○　時期：10月下旬～11月中旬
（乾燥すると発芽不良になるので、耕起直後か降雨を利用して行う）
○　播種量３kg／10a

レンゲの生育を良くするポイント

１．酸性土壌に弱いので、phが５.２以下の場合は石灰等により調製する
２．耕起は均平に行う
３．排水不良田は排水溝をつくる。（レンゲは停滞水に弱い）

レンゲのすき込み

○　田植えの直前にはすき込みをしない。遅くても田植えの１ヶ月前頃にすき込むのが望ましい。
○　有機物が分解する時に土壌中の微量要素が流失しますので、下表のいずれかの土壌改良材を散布する。

(kg／10a)

	肥　料　名	施肥量
土壌改良材	セルカオイスターミネラル	100
	ミネラルＧ・珪鉄	200
	け い 酸 加 里	40

その後の管理

レンゲの分解によって、稲の根に障害をもたらすことがあります。以下のことを特に注意してください。
１．水を常時溜めない。水管理は、間断灌水を徹底する。
２．やむを得ず直前にすき込んだ場合は、除草剤を散布後１週間して、一度落水し、酸素不足を改善する。

水稲の基肥

○　レンゲの生育状況による肥料の減肥割合を下表に示しています。
（施肥量を基準通りに施用すると倒伏や食味低下の原因になります）
○　レンゲの生育状況と生草重はあくまでも目安で、坪刈りを行い生草重を計って、基肥量を決めて下さい。
〈レンゲの収量調査の仕方〉
１．平均的な生育の所を数カ所選び、１㎡（１m四方）を刈り取って、草の重さを計る。
２．その重さの平均がレンゲの地上部重量（トン数）になる。

レンゲの育成状況による基肥施用量（基肥+穂肥の場合）（10a当り）

すき込み時の生育状況	地上部生草重	夢つくし基肥
旺盛で均一に育成	２ｔ以上	原則施用しない
やや小さく均一に生育	２～１.５ｔ	基準量の３割以下
やや小さく少しまばらに生育	１.５～１ｔ	基準量の５割以下
やや小さくまばらに生育	１～０.５ｔ	基準量の８割以下
まばら又はほとんど生えていない	０.５ｔ以下	基準量のとおり

１．レンゲの栽培年数、ほ場条件（地力）により施肥量は異なります。
２．基肥一回全量施肥の場合は、穂肥時期に肥料が不足することがありますので穂肥で調整する。

施肥（基準量）

◎穂肥をしない施肥体系（緩効性肥料）　(kg／10a)

肥　料　名		施肥量	成分量 N	P	K
基　肥	リンスター30	30		9	
	夢つくし有機一発	50～55	9	4.5	5

※いもち病の多発圃場では45kg/10aで使用して下さい。

◎基肥＋穂肥の施肥体系　(kg／10a)

肥　料　名		施肥量	成分量 N	P	K
基　肥	リンスター30	30		9	
	レコアップ055	55	5.5	2.7	2.7
穂　肥	スーパーユーキくん3号	25	2.5	0.7	2.0

○適用害虫と使用方法(ジャンボタニシ)

薬剤名	使用時期	使用量	本剤の使用回数
スクミノン	収穫60日前まで	1～4kg	あわせて2回以内
ジャンボたにしくん	収穫60日前まで	1～2kg	

育苗

１．資材の準備
○種子：10a当り3.5kg
○培土
1箱当り
床土は2.5kg
覆土は1.0kg
○山土を使用する場合は、焼籾がら又は培土を容量の３割混合する。
○施肥　育苗肥料４・４・４
山土を使用する場合は、育苗肥料４・４・４（1kg）を50箱分の土に使用する。

２．種子消毒
○水20ℓにテクリードＣフロアブル100mℓを溶かし24時間浸漬させる。
（割合は1：2とする）
（例：種子10kgに対し薬剤20ℓ）
又は、温湯60℃に10分間浸漬後、水で十分に冷却し浸種を行う。

播種前後の管理

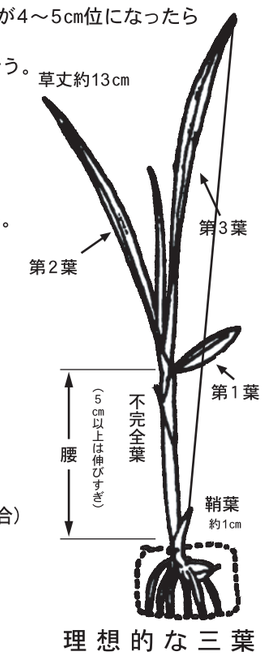
播種日数	月/日	
−7		播種準備
−6		
−5		
−4		
−3		
−2		
−1		
0		播種
1		出芽・緑化期
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		硬化期
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		移植
25		
26		

○種子消毒（薬剤 又は温湯）を行なう。
○浸種は積算温度100℃を目標に、水温20℃で５日間、程度行う。
また、水は１日１回入れ替える。

○種子を水からあげて陰干しし、確実に芽出しさせる（ハト胸～１ミリ）
○播種前に床土に十分にかん水し、次に苗立枯病予防のため、タチガレン液剤100mℓを水100ℓ（100箱分）に溶かしかん注する。（１箱当り１ℓ）
◎１箱当りの播種量は催芽籾で150ｇ（1.3合）を基準とし、出来るだけ「うす播き」をする。
○育苗箱は日当りの良く風通しのよい均平な場所にビニールを敷き、その上にリン木を敷いた上にならべる。
○カビが発生したらダコレート水和剤100gを水50ℓに溶かし、かん注する。（100箱）（1箱当り500cc）
○苗いもちの発生が予想される時は、ビームゾルをかん注する。（150倍液）（1箱当り500cc）
○被覆期間は7日程度とし苗の腰の高さが4～5cm位になったらラブシートを除去する。
○かん水は床土の表面が乾いたら十分行う。夕方のかん水は出来るだけさける。

○バカ苗病が発生したら直ちに抜き取る。

○弁当肥の施用（田植前５日頃）
硫安250gを水50ℓ（100箱分）に溶かしかん注する。
（田植えが予定より遅くなり苗が老化する場合）



理想的な三葉苗

除　草　農薬使用時は必ず別紙の「水稲農薬一覧」を確認

◎本田除草剤

剤	除草剤名	使用時期	使用法（10a当り）		使用上の注意
粒剤	ウルフエース粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期迄	3kg	湛水	・各種多年性雑草(セリも含む)やノビエ等が全面的に発生する水田。 ・軟弱苗には使用しないこと。
	エーワン1キロ粒剤	移植後5日～ノビエ3.0葉期迄	1kg	湛水	・1年生及び多年草の幅広い雑草に有効 雑草を白化させて枯らす。
	エンペラー1キロ粒剤	移植時～ノビエ3.0葉期迄	1kg	田植同時湛水	・田植同時散布機で施用できる。 ノビエやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。
パック剤	エンペラージャンボ	移植後3日～ノビエ3.0葉期迄	10パック（250g）	湛水	・各種多年性雑草やノビエ等が全面的に発生する水田。 ホタルイやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。 ・10パックを水田に均等に投げ込む。
液剤	エンペラーフロアブル	移植後3日～ノビエ3.0葉期迄	500mℓ	湛水	・各種多年性雑草やノビエ等が全面的に発生する水田。 ホタルイやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。

※田面が露出しないようにして散布し、散布後１週間は落水しない事。

◎中後期除草剤

対象田	除草剤名	使用時期	使用量(10a当り)	使用上の注意
広葉雑草 コナギ・ウリカワ等	バサグラン粒剤	移植後15～55日 収穫60日前まで	3～4kg	・10ａ当り３～４kgを均一に散布する。 ・散布１～2日前に落水し、足かた水くらいで散布する。 ・散布後３日間は水を入れないこと。 ・液剤は、動力噴射機での散布は薬害が生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理をすることが望ましい。又高温条件での散布は薬害が生じることがあるので、散布後に高温が予想される場合は、夕方に散布する。
ノビエ・広葉雑草 コナギ・ウリカワ等	ワイドパワー粒剤	移植後20日～ノビエ5葉期まで 収穫60日前まで	3kg	
	ワイドアタックSC	移植後20日～ノビエ6葉期まで 収穫30日前まで	100mℓ	

令和5年1月末現在

この栽培ごよみはJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

●農薬を使用する際は、必ずラベルの確認をしましょう●

●農薬（毒物・劇物）の購入には、印鑑が必要です。